

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年3月13日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690100039
法人名	(株) ライフサポート吉満
事業所名	グループホームみどり
所在地	鹿児島市川上町3561番地 (電話) 099-295-7333
自己評価作成日	令和4年2月27日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和4年3月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街の一角に建つ木造平屋建て2ユニットの施設です。ホームの中庭には広いウッドデッキがあり、自然に囲まれ、鳥のさえずりが響きわたり、天気の良い日は職員と一緒に洗濯物を干したり、日光浴、散歩が楽しめます。ホーム内にはシアタールームを完備しており、希望に応じて映画の上映会を催します。ホールは天井が高く、ロジックで明るく、楽しくおしゃべりができる空間となっています。食事作りでは匂いや音を感じれるように対面式のキッチンとなっており、家庭的な雰囲気を大切にしています。季節ごとの行事や催し物にも力を入れています。一人一人の個性や意欲を大切にし、レクリエーションに参加したり、洗濯物をたたみをしたり、ホールでの活動時間を増やし、寝たきりの時間が少なくなるように努めています。看護職員が多数在籍、インシュリン等の医療処置が必要な方でも受け入れができます。緊急時は病院受診対応も積極的にこなっています。協力病院や介・看護職員間で24時間体制の医療連携を図り、日々、安心して生活が送れるよう支援しています。職員は定期的に施設内研修に参加し、サービスの向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、鹿児島市吉野支所から車で15分ほどの自然豊かな川上地区の一角に平成18年に開設されている。平屋建ての2つのユニットは事務室を挟んで玄関、ホール、居室が対照に配置されており、利用者同志の交流や職員間の連携、協力が日常的に図られている。個人住宅や畑等に囲まれており、少し離れて小学校や商店、団地等があり、開設以来、地域との円滑な交流に努めてきているが、現在はコロナ禍に配慮して、面会は窓越しで実施し、イベントへの参加やボランティアの受け入れ、ホームの行事への家族や住民の参加等は自粛している。

「介護理念」と「経営理念」を設定しており、管理者及び職員は、特に4項目からなる介護理念については日頃のケアの基本として毎朝唱和し、また振り返りやケアの確認にも努めて周知と理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。利用者の尊厳や人格、想いを大切にしながら安全なケアに努め、その人らしい生きがいのある暮らしとなるように、心身の状態や生活習慣等に配慮しながら趣味等の取り組みの個別支援にも取り組んでいる。利用者のペースを尊重し急かさないケアに取り組んでおり、利用者及び家族からの意見や要望等の汲み取りに努め、全員で協議して改善に繋げており、本評価のアンケートの結果からも家族の信頼度の高さが窺える。

管理者及び職員は、お互いに気軽に意見を言い合える信頼関係を構築しており、日頃の業務の中や職員会議等で意見や要望を出し合って運営やサービスの改善に努めている。職員の中には調理師や看護師(7人)の有資格者がいて、日々の調理や健康管理等に専門性を活かした質の高いケアがなされている。管理者はケアへの助言指導に努め、勤務シフトの作成には有給休暇取得の促進や個人的事情等にも配慮するなど、働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。職員の資格取得や、外部研修受講に係る経費については法人の助成制度もあり、職員のモチベーションアップに繋がっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域との交流を大切にすることを理念に掲げ、毎日唱和を行い理念の情報共有を図っている。	介護理念と経営理念を掲げ、目に付き易い事務所に掲示し、また、毎日の朝礼時に唱和も行って周知を図っている。日頃の業務の中や職員会議時に周知状況や意見交換、実施状況の確認等を行い、常に理念を意識しながら支援の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	事業所として町内会に加入している。コロナ禍で地域のイベントに参加は出来ないが町内会長とは交流しており情報交換している。近隣施設の管理者同士でも情報共有している。	開設以来、町内会に加入して情報の把握に努め、地域の棒踊り等のイベントに参加し、住民との日常的な会話があり、ボランティアを受け入れるなど、良好な交流が図られてきているが、現在はコロナ禍の為、地域のイベントの殆んどが中止され、利用者の外出や買い物、ホームの行事への住民参加等は自粛している。周辺の散歩時の挨拶や住民から寄せられる高齢者福祉や認知症ケアに関する相談に助言する等の交流は継続している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	高齢者や認知症についての相談窓口を設け、随時受け付けている。相談内容によって、日頃実践を通じて得た支援の方法や認知症の方への対応をお伝えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議を開催している。コロナ禍で町内会長や長寿あんしん支援センターの方は参加できないが、活動内容等の資料を送付し意見や要望をうかがい、サービス向上に活かしている。	会議は、家族、町内会長、市長寿安心センター職員等が出席して隔月毎に開催しているが、コロナ禍に配慮して現在は一堂に会することは控えて職員での会議を開催し、委員には資料を送付して意見等を貰っている。利用者の状況やホームの運営、行事、事故報告等を議題にしており、寄せられた意見等は職員会議や朝礼等で検討して業務やサービスの改善に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>年1回介護相談員の訪問調査があり、第三者から利用者へ意見を聞く事でサービスの向上につなげている。介護保険等の不明な点は行政にこまめに確認し連携を図っている。</p>	<p>介護保険の更新や各種制度の申請、報告、感染症予防に関連する協議、生活保護受給中の利用者（5人）の処遇に関する連携等を、窓口に出向いたり電話等で行い、指導や助言、提案をもらうなど、市担当者とは協力関係を築いている。市がインターネットで配信する情報の把握に努め、運営及びサービスの向上に努めている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>施設内で身体拘束について研修を行っており、禁止の対象になっている具体的な行為を理解している。リスクマネジメント委員会を設置。毎月話し合いの場を設けている。職員会議で情報の共有を行っている。</p>	<p>身体拘束の防止や高齢者虐待、権利擁護については、職員会議の中で勉強会を実施して認識を共有している。ケアに係るマニュアルを整備し、適正化を図るリスクマネジメント委員会を年4回開催して拘束の無いケアを基本に自由な暮らしの支援に努めている。昼間は施錠しないで、外出したがる利用者には対話や寄り添い等で気持ちの安定を図り、職員の不適切な発言やケアには、その都度、助言して改善を図っている。センサーマット等の使用は、事前に必ず家族の了解を得ている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>施設内で虐待についての勉強会を行い、虐待の種類や具体的な内容を理解している。施設内で虐待にあたる行為や言動はないか、毎月話し合いの場を設け、職員会議で共有している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護に関する制度の研修会を年1回開催している。必要なケースがあった場合は関係者と連絡を取り合い活用出来るように支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際に契約書の内容を詳しく説明している。また疑問や不安、不明な点がないか確認しており理解、納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族へは面会時や電話を通し、随時意見や要望をうかがっている。利用者へは個別に気持ちや思いをお聞きする機会を設け、運営に反映させている。	利用者や家族には日頃から気軽に意見を述べて貰える様に配慮している。利用者の思いは日常の会話や表情、仕草等で理解し、家族からの意見、要望は面会（コロナ禍のみに配慮して窓越しで実施）や電話、手紙等で把握しているが、家族会の開催は中止している。毎月発行の「みどり園便り」でも利用者の日頃の生活状況を写真やコメントで伝え家族から意見等を貰うように取り組んでおり、出された意見要望は相談苦情表に記録し、職員会議等で協議して改善を図っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員会議を開催。職員からの意見や要望、提案を聞く機会を設けており、反映させている。	管理者及び職員は日頃から協力及び信頼関係の構築に努めており、日頃の業務の中や朝礼、職員会議、人事考課の際の個人面接（年2回）時に意見や要望を気軽に申し合い、また、状況により随時の面談も行っており働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。管理者は、日常的に接遇やケアに対する助言・指導に努め、スキルアップを図る研修の実施や勤務シフトに有給休暇の取得や健康状態、個人的事情を配慮しており、職員の資格取得にもバックアップがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力、資格、リーダーシップ等を評価する人事考課を実施している。面談も実施し、各自がやりがいや向上心を持って働けるように職場環境、条件の整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>定期的にテーマを定めた社内勉強会を行うことにより職員一人一人の知識、技術の向上を図っている。法人内外の研修を受ける機会を設けている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣地域のグループホーム同士でネットワークを構築し連携を図っている。コロナ禍以前は勉強会や相互訪問等活発に活動し、サービスの質を向上させていく取組を行っていた。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者や主任、副主任が入居に至るまでの間、本人の自宅や入院先を訪問し、面談を行っている。面談を通じて信頼関係を構築し、本人の要望や悩み等を引き出せるよう務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者や主任・副主任が入所に至るまでの間、家族とのコミュニケーションを緊密にとることに務めている。面談や電話連絡を通じて信頼関係を構築し、家族の要望や不安を引き出せるよう務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	積極的な対話、観察、情報収集で本人の状態に応じた必要な支援を提供できるように努めている。また、場合によっては他のサービスも必要でないか検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることに着目し、職員と一緒にできることはしてもらい、介護される一方の立場に置かないように配慮している。日常的な関わりの中で関係の構築している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の近況を電話や毎月の通信でこまめに報告している。家族の援助が必要な時は、協力を仰ぎながら一緒に支援を進めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親せき、友人からの手紙や電話をいつでも取り次いだり出来るよう関係者に伝えるようにしている。	利用者毎の馴染みの情報を把握しており、また、殆どの利用者がホーム近辺からの入所で、共通の馴染みの人や場が多く利用者間の話題になる状況が見受けられている。感染予防対策を徹底して通院や周辺の散歩、訪問美容等を支援しているが、コロナ禍に配慮して外食、外泊、会食、墓参等は控えている。家族との窓越しの面会や電話、手紙の取り次ぎ、園便りの送付等に努め、ホームの携帯電話の貸し出しも日常的に行うなど、関係の継続に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、気の合いそうな方同士を近くにしたり、一緒に談話できるよう配慮している。出来るだけトラブルにならないような空間作りを心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院治療が必要で契約が終了しても、その後もご家族や病院から状態をお聞きし関係性を大切にしている。状態が安定し再入居の希望があれば、再入居に向けての支援も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中でさりげなく意向を確認したり、現状の満足度を確かめている。困難な方に対しては、その方の気持ちや意向を職員同士で意見交換し、本人本位で検討している。	日頃の会話や、発語が難しい利用者からは仕草や独自のサイン等で思いの汲み取りに努め、家族にも確認しながら、利用者主体の安全で生きがいのある暮らしになるように取り組んでいる。利用者の意向に沿って音楽やテレビの視聴、ぬり絵、編み物、裁縫、食材の下処理、お盆拭き等の取り組みを、体調や残存能力に配慮しながら個別に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回面談時、本人やご家族からヒヤリングし、フェースシートに記載している。全職員で共有し、把握している。他の関わりがあったケアマネ等の関係者からも情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの現状をよく観察し、職員間で情報交換している。本人の意向に添っているか、有する力が発揮できているか心身の状態等を会議で話し合う機会を作っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題やニーズが即したものであるか、本人、家族、関係者から意見を伺う機会を設けている。モニタリングは個人の偏った意見にならないように複数名で行っている。それぞれの意見を基に現状に即した介護計画の作成に努めている。	介護計画には、利用者や家族の思いを日頃のケアの中や電話等で汲み取り、主治医の指示やモニタリング（年3～4回）時の職員の意見等を基に残存機能や習慣、楽しみ事等にも配慮して作成している。利用者の心身の変化時は計画を実態に沿って変更し、家族の理解も得て支援しており実施状況は「管理日誌」「連絡ノート」等の記録で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果等をケース記録に毎日記入している。気づきや工夫、ヒヤットしたこと等は、朝礼、ユニットの連絡ノートや申し送りで情報共有、ケアの統一に努めている。介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な状況変化があった際は、現状を伝えるだけでなく、助言や既存のサービス以外の提案を行い、柔軟な支援やサービスにつなげている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を開催し、町内会長や長寿安心センターの方へお伝えし、意見や情報交換を行っている。コロナ禍で町内会の行事に参加したり外出することは出来ていないが、町内会たより等で現状や情報の掲載を楽しみ		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人、家族の希望を尊重し、納得した医療が受けられるよう支援している。また、病状によっては専門医の受診も選択できるようにお伝えしている。	本人・家族が希望する医療機関での治療を支援しており、4か所の医療機関が主治医となっている。定期的な訪問診療（月2回）や通院を実施し、他科受診も家族と協力しながらホームが主体的に同行している。協力医療機関とは24時間医療連携体制を構築し、7人の看護師資格を有する職員が主となって利用者の衛生や健康管理に努めており、病状等は家族にも密に報告して、利用者及び家族の信頼と安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームに勤務している看護職員が日常的な医療管理を行い、日頃からの予防看護に努めている。協力病院の看護師にも気軽に相談しながら日常の健康管理や病院受診の援助をおこなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は速やかに情報提供を行っている。入院中は定期的に状態把握、情報収集に努めている。退院の目途がたったらSWやCMから退院後の生活上の問題点等の介護支援連携指導を受け、緊密に連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に看取りに関する説明を行い、おおまかな方向性を確認している。施設内研修もおこなっている。重度化した方については随時状態を報告し、今後の方向性を確認している。事業所としてできること、できない事を十分に説明し、納得した終末期を迎えられるよう努めている。	重度化や看取りの対応については、詳細な指針を整備しており、入所時に利用者及び家族に説明して同意書を貰っている。入所後は利用者の状態変化に応じて終末期のケアを含む説明や話し合いを実施し、ホームで可能な限り希望に沿った支援に取り組んでいるが、最終段階で特別養護老人ホームへの入所や医療機関に入院しており、看取りの実績は無い。今後も家族の意向に沿って支援の体制を構築し、看取りの対応も行う意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当普及員の講座を受けた職員や看護職員を中心に応急処置や救命処置の研修を定期的に行っている。実際に人形で心肺蘇生の実技も行って実践力を身に付けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年間計画で消防・防災訓練、避難経路の確認、通報等の自主訓練を定期的に行っている。町内会にも加入しており、いざという時には連絡し協力体制を整えている。</p>	<p>夜間発生を想定した災害訓練を年2回（通常、1回は消防署の立ち合いであるが、本年度はコロナ禍の為ホームだけの訓練）と、災害に関する話し合いや避難経路の確認、消火器の取扱い等の自主訓練を年4回実施している。訓練には地域住人の参加は得られていないが、災害発生時の町内会の協力を要請して了解を得ている。日頃から災害事例を基に防災への認識の共有に努め、ホームにはスプリンクラーや自動通報装置が設置され、3日分の食料、飲料水、介護用品等も備えている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に認知症の理解、接遇、虐待、プライバシーについての勉強会を開催。プライバシーが侵害されていないか、話し合いの場を設け、出た意見に対し改善策を講じている。	個人情報やプライバシー保護については運営規定や重要事項に明記し、利用者の人格や誇りを損ねる事の無いように勉強会で接遇を含む研修を実施して認識を共有している。利用者の心身の状態や生活歴、習慣等に配慮しながら自己決定を尊重した支援に努めており、排泄や入浴時のケアは羞恥心にも配慮して適切な言葉遣いで取り組んでいる。ホームの浴室やトイレ、居室等はプライバシー保護に配慮した構造になっており、書類等も事務室で適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方に合わせ、分かりやすい声掛けや表現を用い、希望や関心、好み等が引き出せるような雰囲気作りに努め、自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の業務に合わせるのではなく、一人ひとりの状態や気持ち、ペースに合わせて、柔軟に対応できるよう常日頃から職員に対して伝えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	訪問理容室を利用しており、好みの髪型に対応してもらっている。服装は好みの物を選んでもらっている。身だしなみは職員が気を配っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事へ感心が持てるようメニュー表を掲示している。食べたいものはないかお聞きして提供している。その方の能力に応じてキッチンに入ってもらったり、ホールでもやしのひげ取りをしたり、お盆を拭いてもらったりしている。	利用者の好みや形態、季節感、盛り付け等を細かに配慮し、調理師資格を有する職員の助言等も活かしながら調理している。お節や誕生会、節句、敬老会、クリスマス等の行事食や、手作りのおやつ（団子やケーキ、ふかし芋等）、ピクニック気分の園庭での弁当、中庭デッキでのカフェ等、食事が楽しみなものとなるよう工夫しており、利用者もお盆拭き等を積極的に行っている。コロナ禍に配慮して外食や家族との会食等は自粛中である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのとれた食事メニューを考案し、その方に合った食事量、形態で提供。摂取量が少なかった方へは食事の時間以外での時間でも提供し、一日を通じて確保できるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	なるべく自分で歯磨きしてもらい、磨き残し等のケア職員が実施。口腔内の清潔がいかに大切かの研修を定期的の実施している。必要に応じて歯科往診を受け、口腔ケア指導を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレで気持ちよく排泄できるように一人一人の排泄パターンの把握に努めている。失敗が減ることでパッドの使用頻度も減っている。寝たきりの方も同じく、汚染が長時間にならないよう早めに交換している。	利用者の自尊心や習慣、羞恥心等に配慮し、身体の状態やパターンに応じた支援をプランに反映させて改善に取り組んでおり、昼間は声掛け等で可能な限りトイレでの排泄を支援している。夜間のみポータブルトイレ使用は2人で、常時オムツ利用の利用者についても早目に交換し、その都度、部分洗浄している。便秘の予防に植物繊維の多い食材や水分の摂取、運動量に配慮し、状況によっては主治医にも相談して対処している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日適度に身体を動かす機会を作っている。食事は野菜を多く取り入れ、個々に応じた水分摂取量にも気を付けている。便秘が及ぼす影響については日頃より看護職員から周知している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日は設定はしているが強制はしない。希望やタイミングはうかがい合わせている。入浴日以外でも希望者や部分浴、汚染状況によっては随時対応している。	週2～3回、個浴での入浴を基本としているが、必要に応じて清拭や洗浄で保清している。入浴の順番や温度、時間、同性介助等は利用者の意向に沿って柔軟に対応して楽しんでもらい、入浴後は水分補給や皮膚疾患の手当を支援している。重度化した利用者用にリフトが備えられ、複数介助も取り入れている。入浴をためらう利用者には無理強いしないで、時間の変更や声かけ等を工夫し、本人の意欲を待って支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別にその時の睡眠状態に応じて、休息できるよう支援している。訴えることができない方に対しては長時間座りっぱなしがないようにベッドで休む時間を設けている。室温等も配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	目的や用法、用量、副作用が分かるようファイルにとじ、いつでも閲覧できるようにしてある。薬が変更になった時は特に状態変化の確認に努めている。分からない事はかかりつけ薬局で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の趣味や、散歩や裁縫、時代劇鑑賞、掃除等、一人ひとりが楽しみにされていることの理解に努め、支援できる環境作りを行っている。定期的に楽しい行事を行い、気分転換を図っている。		
		○日常的な外出支援		コロナ禍の為制限がある状況が続いており、計画したサービスの行事等が十分に実施	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出支援は行っていない。中庭でカフェを臨時オープンしたり、お弁当を作りピクニックを行ったり、外出気分を演出する行事を考え実施している。	り、計画した行事等も十分に実施できず、また、地域のイベントの殆どが中止になっているが、感染予防対策を徹底して利用者の状況に応じた周辺の散歩や通院、園庭でのカフェ、ピクニックを想定しての園庭での昼食会等に取り組んでいる。一時帰宅や買い物、外泊、外食、墓参等は控えているが、室内での軽い体操やゲーム、音楽・ビデオの視聴、映画鑑賞等の工夫でリフレッシュに努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手元にお金がないと心配と言われる方もいらっしゃる。本人や家族の希望があれば説明のもと（少額）金銭の所持はできる。しかし実際使う機会はほとんどない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話の持ち込みは可。家族や友人と話したい時、手紙を出したい時はいつでも対応している。電話がかかってきた時も取り次いでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や気温、時間に応じて適度な室温、湿度、照明等に配慮している。ホールにはカレンダーを掲示。季節感のある飾りつけをしている。洗面所やトイレが気持ちよく使用できるように環境整備も行っている。	利用者が昼間の殆どを過ごすホールは、明るく余裕あるスペースが確保されており、テーブルやソファ、テレビ等が動線等に配慮して設置され、畳スペースも設けられている。利用者の作品や行事の写真、季節感のある活花や人形等が飾られて和やかな雰囲気になっている。清掃や室温、換気、整理整頓等を徹底し、感染症予防のための手指消毒剤等も設置され、不快に感じる音や臭い等もなく、利用者は四季を感じながら快適に過ごしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>利用者の個々のニーズに対応できるよう食堂ホール以外にも娛樂室や和室、中庭デッキに椅子を準備し自由に利用できるようにしている。相性のよい利用者同士で席を隣にしたり、安心して過ごせるような空間作りに取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた馴染の家具を家族と相談して持参してもらい、居心地のよい空間作りを行っている。家族写真やレクで作った作品等も掲示している。</p>	<p>洋室の居室は腰高窓の構造で明るく、余裕ある広さが確保されている。ベッド、エアコン、吊戸棚が備えられ、利用者の状態や利便性を考慮して配置されている。利用者は在宅時に愛用していた寝具やテレビ、ラジオ、家族写真、位牌、小物等を持ち込み、自身の作品（ぬり絵や絵画）や頂いた造花等も飾って、その人らしい落ち着ける雰囲気のある居室となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>いつでも中庭デッキに出れる環境である。洗濯物を干しにくる方もいらっしゃる。建物内部の必要箇所には手すりが設置。一人ひとりの身体状況に応じてベッドの位置や福祉用具を活用し、少しでも自立した生活が送れるよう工夫している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない